

平成 28 年 10 月 26 日

1. 開催日時：平成 28 年 10 月 26 日（水） 15 時 00 分～16 時 34 分
2. 会 場：熱海市役所第 3 庁舎第 1～3 会議室
3. 出席者：【構成員】 市長[議長]・教育長・原委員・水野委員・若井委員・木田委員
【関係者】 副市長・経営企画部長・健康福祉部長
【事務局】 企画財政課長・教育委員会事務局次長
4. 議 事：①平成 29 年度重点事業と施策の検討について
②学校施設の適正規模・適正配置について
③姫の沢自然の家について
5. 議事要旨：以下のとおり。

（1）開 会

（2）市長あいさつ

本日は、お忙しい中、平成 28 年度第 1 回熱海市総合教育会議にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。また、日ごろから熱海市の子ども達の教育の充実と発展に大変なご尽力を賜っておりますことを感謝申し上げます。この総合教育会議は法律の改正により、地域の教育の課題やあるべき姿を共有し、相互に連携して教育行政を推進していくため、昨年度より全ての地方公共団体で設置することとされたものでございます。昨年度は本会議において熱海市教育振興基本計画後期基本計画を教育大綱と位置づけるとともに、本年度予算編成にかかる貴重なご意見をお伺いし、委員の皆様には大変感謝申し上げます。本日の会議においては、次第にあります 3 点について議論を進めて参りたいと思います。

この三つのテーマを中心に意見交換を行い、教育委員としての皆様のさまざまな立場から、教育に対する自由な意見交換をしながら、お互いに意思の疎通をはかり、教育行政の推進を図って参りたいと思いますので、活発なご議論をお願いいたします。

（3）教育長あいさつ

昨年の総合教育会議では教育振興基本計画の後期基本計画について協議し、その後期基本計画を大綱とすることを承認し、重点事業と施策についての協議を行いました。本年もすでに中間点を過ぎました。その間、熱海市の子ども達の未来のために昨年協議された重点事項と施策を着実に進めてきております。しかし、教育を取り巻く環境は驚異的な早さで変化しております。本日の会議では新たに学校教育課及び生涯学習課に関する重要な課題を報告させていただき、今後の施策に活かしていきたいと思っております。これら課題に忌憚ない意見を出していただき、お

互いに課題を共有できる場にできたらと思いますので、よろしく願いいたします。

(4) 議事

①平成 29 年度重点事業と施策の検討について

教育委員会事務局から資料 1「学校等施設修繕計画」、資料 2「インタラクティブホワイトボード」、資料 3「平成 29 年度澤田政廣記念美術館 施設改修等について」をもとに説明がなされた。

【質疑】

(原委員)

ただ今、事務局から学校施設改修費、ICT、ALT、澤田政廣記念美術館について説明がありました。その中でも学校施設の改修については 高額な費用をかけて修繕計画が作成できたこと、また予算を付与していただけたことに感謝いたします。

このように危険度、緊急度の高い学校施設等が多々ある中、市長は優先順位など、どのような基準を設けて施設改修を進めていくお考えでしょうか。

また、教育委員会では施設改修計画を立て、予算要求していく方向でおりますが、どこまで担保していただけるのでしょうか。

(市長)

2 日前、初島小中学校に訪れる機会があり、建物を案内していただきました。雨漏りや海に面したデッキが立ち入り禁止となっている状況を目の当たりにしました。この状況はかなり前からと伺い、非常に驚きました。今までメンテナンスが十分でなかったことが実態だったと思います。今回、修繕計画の数字が出て、基礎データが揃ったと思います。

そのような現状の中、まずは子どもの安全と安心、遊び、運動できる環境を整えることが大事だと思っています。この点から、優先順位については施設の大小ではなく、危険性の高いものや緊急性の高いものから進めていくことになるかと思っています。具体的にどことは申し上げられませんが、教育委員会や教育委員さんのご意見をお聞きしながら、優先順位をつけていきたいと思っています。

(水野委員)

少子化の進行を考えますと、今後、学校施設の適正規模・適正配置計画のスピードを上げて行く必要があると感じております。そのためには、基幹となる学校へ重点的に予算を配分していかなければと考えていますが、市長はどのようにお考えでしょうか。

(市長)

平成 22 年に策定した学校施設の適正規模・適正配置計画はすでに 6 年経っています。冷静に数字を見ますと、少子化は予想以上に進んでいることが数字として出てきている状態でございます。

2 年前の熱海中学校、小嵐中学校が統合した例もありますが、基幹となる学校については、将来的な投資も含めて予算を計画的に計上していくことが理想であると思います。

大規模修繕については先ほど申したことを第一と考えておりますが、その他のソフト的な教育環境などに関しましては市内の他の学校とのバランスも考えて、計画的に投資すべきで

あると思います。

(若井委員)

施設改修に際して、従前の施設の形態に戻すだけでなく、児童・生徒数の減少やA L Tの拡充、I C Tの一層の活用など施設の使用形態を変えていくべきと考えております。そのような新しい機能の付加を含めた施設改修について、市長はどのようにお考えでしょうか。

(市長)

新しい機能について、今回、校務支援システムの導入に向け準備をしております。児童生徒にかかるものとしてはタブレットの導入なども行っているところであります。今後、国際感覚の視点、情報社会の進展、大きく教育環境が変わっていくと思われまます。委員さんがおっしゃられるような、外国語教育の充実のためA L Tなどの配置やI C T面の充実など、先進事例の情報も共有して、その必要性について、総合教育会議の場などで十分に協議検討していただき、新しいものがよいかということもありますので、ご検討いただければと思います。

(若井委員)

グローバル化が進んでいく経済社会状況下で熱海の子どもたちも諸外国の人たちと共に活躍していかなければと感じております。そのために外国語教育の充実やI C T機器操作の習熟に力を入れていくことは、非常に大事なことだと考えておりますが。この点について、市長はどのようにお考えでしょうか。

(市長)

先ほど若井委員さんへのお答えが基本となりますが、外国語教育につきましては、カリキュラムの拡充や、また、2020年東京五輪なども契機となることもあり、その必要性は高いと考えております。また、次代を担う子供たちは、将来的に多くの外国の方々とコミュニケーションをとる場面も多くなるでしょうから、進めていく必要があると感じています。

I C T機器の習熟につきましても、同様に考えて進めていけたらと考えています。

これらの導入については計画的な投資が必要となりますので、予算措置については十分に協議検討していきたいと考えています。

(木田委員)

先日、市長さんにも同伴いただき、箱根町こども園の視察に行った折、箱根町長様から貴重なお話を伺う機会に恵まれました。その時に感じたこともあります。学校施設の建設や統廃合、いわゆるこども園の設置については様々な意見があることはどこも同じと伺ってきました。どうしてもその施設が必要、その地域に価値あるものなのだと信念のもとに市長である方のリーダーシップが大変必要だということを痛感しました。こども園は女性の労働力

を確保するということから、施策の中でも優先順位が高いものだと思っています。

少子化の急激な進行を踏まえ、今後の熱海市の就学前児童施設の適正規模・適正配置について市長はどのようにお考えでしょうか。

(市長)

就学前児童施設については、先ほどの説明からも平成 22 年当時の学校施設の計画で示された児童減少数よりも更に減少している実態がございます。幼稚園、保育園などの就学前児童施設については、通園する子供の安全安心や充実した保育教育環境を整える必要性から、早急に着手すべき事業であると認識しています。また、保護者、地域の方々との合意形成に時間を要することを考えると、平成 29 年度には、具体的に進めていきたいと考えております。

②学校施設の適正規模・適正配置計画について

教育委員会事務局から資料 4「就学前児童施設の適正配置について(案)」、資料 5「学校施設の適正規模・適正配置計画(後期)」をもとに説明がなされた。

【質疑】

(原委員)

急激な少子化の進行は、意図しない施設の統廃合や休園・休校を生じさせることも考えられます。そのような時に、教育委員会で検討した結果を市長に諮る必要がある場合、緊急にでも会議を招集していただけますでしょうか。

(市長)

統廃合だけでなく、この会議は柔軟にやるべきだと思っています。突発的な事案の際にも機能させなければならないということで、必要に応じて開くものがあると考えています。

(原委員)

教育委員会の定例会は、毎月 25 日前後に開催されることとなっています。全教育委員のスケジュールを合わせることはなかなか難しいため、この総合教育会議についても定期的な開催月を決めていただけないでしょうか。

(市長)

定期的に開催することは賛成です。例えばですが、新年度予算の状況を中心に議論するものとして 5 月、事業の進捗状況の確認や来年度予算に向けた方向性を主に議論するものとして 10 月と年 2 回の開催としたいと思いますが、教育委員さんはいかがでしょう。

——— 了承 ———

(市長)

委員の皆さんご了承とのことですので、次回以降、そのスケジュールで組ませていただき

たいと思います。

(水野委員)

先ほどの次長の話の中で、上多賀幼稚園と多賀幼稚園の統合の話がありましたが、上多賀幼稚園の跡地利用について、市長にお考えがあるようでしたら教えていただけますか。

また、今後他の施設での統廃合が進んだとして、その跡地についてもお考えがあれば教えていただけますか。

(市長)

学校施設の適正規模・適正配置計画にも、南熱海地区の特別支援教育の充実を図る上で、施設を含めた跡地利用について地域住民と検討するとしております。具体的に考えを持っているわけではありませんが、コミュニティの場所でもありますので、地域の方々のご相談させていただきながら、有効な活用方法を検討していきたいと思っております。

(教育長)

教育委員会として、こんな利用の仕方があるのではないかとということで考えたことをお話しさせていただきます。統合に伴い、上多賀幼稚園は教育委員会の手から離れる状況になります。せっかくある施設を再利用し、有効活用する提案であります。例えば、子育て支援センター的要素を前面に出し、就学前の子どもたちのために支援を考えていくのはどうでしょうか。発達に問題を抱えた子、子どもの居場所、学習支援に対するもの、図書室のようなもの、子どもを預かる施設を統括するものが考えられればよいと思います。

子育てに関することで教育委員会と子育て支援室が一緒になって就学前の子ども達を受け入れる施設にする考えを持っているのですが、この辺のことについて市長はどのようにお考えでしょうか。

(市長)

私だけが決める話ではないと思っております。この場で良い悪いという話ではありませんが、教育委員の皆様、地域の皆様と跡地をどう使ったらよいのか、教育長のお話は一つの重要なご提案だと思います。

(教育長)

今週、教育委員会が第3庁舎へ移転することになりました。大きな要素としては、隣にある子育て支援室との連絡も含めて、保護者の利便性を考えた上で移転すると考えています。子育てに関することに直接、話をするなどの組織的なことや、保護者の方も含めた地域の方も利用しやすいことを考えた中での移転だと考えています。子育てに係る施策については出来るだけ早く進めて行くと考え、福祉と教育が手を携えて新たな出発をすることも良いのではないかと考え、意見を述べさせていただきました。

(若井委員)

認定こども園の開設については、私どもと市長と視察へ行き、検討を進めているところです。その後施設の建設についての進捗状況はどのようになっていますか。

(市長)

過日、教育委員の皆様と箱根町の視察も踏まえ、通園する子供の安全安心や充実した保育

教育環境を整える必要から、早急に着手すべき事業であると認識しております。具体的にどこでということがテーマとなりますが、選択肢が限られておまして 教育委員の皆様とも相談させていただきながら、速やかに決定していきたいと考えています。

(若井委員)

ただいまの件で要望です。認定こども園の検討過程において、既存施設の利活用も視野に入れておられるものと思います。しかし、どのような場合でも、単純なリフォームにより強固な箱を 造ればいいという考え方ではなく、乳幼児が多数一緒に生活する場として相応しい、明るくて楽しく毎日通園したいと思えるような夢のある施設にして頂けることを強く要望したいと思います。新築する場合も、もちろんそのような施設にさせていただきたくお願い申し上げます。

③姫の沢自然の家について

教育委員会事務局から資料 6「姫の沢自然の家」をもとに説明がなされた。

【質疑】

(木田委員)

自然の家を取り巻く環境につきましては、このような結果も致し方ないのかと思いながらも、市外のサッカー関係者の利用が若干なりとも増えている状況、小学生の通学合宿に利用されている状況を考えますと、社会教育施設の役目は終わるのかもしれませんが、サッカー場などの今後も考えて、これらの利用者の宿泊する場はお考えの中に入れられるべきかと思っておりますがいかがでしょうか。簡易な宿泊施設でもあれば、例えば現在使用されていない「梅園荘」などの既存施設に手を加えて使用する方法もあると思っておりますが、その辺りを含めてどのようなお考えでしょうか。

(市長)

合宿などでスポーツ施設の利用と宿泊を合わせる必要があることは承知しております。熱海市には、ご承知のとおり、数多くの宿泊施設がございます。なかには、定例的に民宿に宿泊して合宿を行っている団体もございます。民間施設の活用をしていただくことで熱海の魅力をお伝えすることもできますので、市営による宿泊施設の運営については、現在考えておりません。

ご提案の梅園荘の活用に関しましては、長期間利用していない状況、耐震性もさることながら安全性の面を確保するには多額の費用がかかると想定しております。

(教育長)

観光地としての特性を考えてもよいのではと思います。姫の沢の利用について挙げられておりますが、施設がなくとも自然を生かすことで人が集まる状況があり、活用を考える中で簡易な宿泊施設を造ることもよいかと思っております。市で運営することが難しいのであれば、民間の力を借りることもありうると思っておりますので、広い形で考えていくことが必要になるかと思っております。

(市長)

箱根町に視察に行ったときに箱根町教育長さんからお話があり、印象的だったのは「箱育」ということがあるということです。地域のことを子ども達に認識してもらい、郷土愛に繋がりを、憶測ですが、将来的に地元に戻ってもらえるようなことを行政側が意図しているのではという気がしました。特に箱根町は公立の保育施設しかないことから、就学前と小中学校の繋がった教育ができることが特徴的であり、地域教育の良い事例という感じを受けました。

今日の議論はハードがメインでしたが、教育の中身の部分も是非議論していただきたいと思っております。熱海らしい教育をやりたいという思いがありますが、教育の中身の部分について、委員さんのご意見を聞かせていただければと思いますが、いかがでしょうか。

(水野委員)

英語教育について子ども達に聞いてみると、小学校のALTの授業で会話や歌を歌うことはすごく楽しいようですが、中学校に入り、文法などが始まると苦手な子どもが出てきて、英語が嫌いになると聞きます。授業を英会話に特化するなどして、外国の方と会話できるようになってもらえれば英語教育が進むのでは思っています。

(若井委員)

少子化にどうしても目が行ってしまいます。本日、統計的な数字も提示されましたが、これから熱海の教育はどうなってしまうのかと保護者の方も心配されているかと思えます。これからの熱海の教育について、中期ビジョンを立てていただけると皆様も安心していただけると思いますが、いかがでしょうか。

(市長)

それはまさに教育振興基本計画ではと思っています。それが市民の皆様が届いていないのであれば、届くようにするのが総合教育会議だと思っています。届いていないようであれば、節目で練り直す必要があるのかもしれませんが、この場で議論をさせていただきたいと思えます。

(木田委員)

少人数は少人数なりの良さ、少人数にしかできない学校運営も特育になりうるかと思っています。観光の町ですので、おもてなしの仕方など人間としての特育です。道徳の授業が見直されていますので、地域に特化したことができる可能性が広がったかと思えます。具体的なことは出ませんが、これだけの文化財のある街、多くの方に来ていただける街ということで街をより知ってもらい、大好きになることに重きを置くことも大事かと思えます。

(原委員)

すでに地域の方を招き、熱海の勉強をしている子ども達がいると思います。今後、少子化により統廃合の意見が出るとは思いますが、その際は熱海らしさを持った学校を検討していただければと思います。

(市長)

学校づくりは教育委員の皆様と市長部局の意見交換をしながら、進めて行くものだと思います。お知恵や意見を出していただき、具体的な事業を進めながら子ども達の期待に応えられるようにしていきたいと思います。その重要な場の一つがこの総合教育会議になりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

(教育長)

箱根町の教育長さんの言葉が胸に響きました。教育というのは学校に行っている間のことではない、生まれてから15歳までの期間を捉えた学び、特育、体育を育てなければいけないのだという話は印象があります。今、熱海市で進めているのは中学校区を南熱海、中央、泉の3つに分けています。教育は地域全体で考えなければいけないという中で、学校が地域に求めるものとして0歳から中学卒業するまでの間、保護者、地域、学校のそれぞれがやることとして、3歳刻みで知育、特育、体育をスタンダードという形で考えています。南熱海はすでに南熱海地区スタンダードとして保育園、幼稚園、小学校、中学校が集まり、ここだけはしっかりやろうという基本線を考え、来年度に向けて実施という中で進めています。

もう一つは連携という部分で0歳から15歳まで、それぞれどういったことを考えなければいけないかということを表で作り、来年には公表できると思います。それで地域の方に学校がやっていることを意識してもらいたいと思っています。

(5) その他

(事務局)

先ほど、原委員さんからご提案のありましたとおり、当会議の定例会は5月、10月を定例開催月として準備を進めてまいりたいと思います。また、本会議において議論すべき重要な案件が発生する場合は緊急に招集させていただきたいと考えておりますので、委員皆様のご協力をお願いいたします。

(副市長)

闊達なご意見ありがとうございます。関係者として今日の議論を踏まえて意見を述べさせていただきます。1点目はハード整備です。学校の施設整備であれば15億円、全体で30億円と話がありましたが、優先順位をつけて対応していくことだと思っています。ただ、15億円はすべて緊急度、優先度が高いとなっていますが、そんなことはありません。その中を

しっかり分解し、更に掘り下げていただき、本当に優先順位が高いものについて一つずつ改善していくことができればと思っています。

2点目ですが、今回は来年度予算を見据えた中で、ハード整備中心となったことは重々承知しております。他方で定例化していただきました。来年5月ですと新年度予算を含めた形で闊達なご意見をいただける場面かと思えます。今後4~5年で英語の義務化など子ども達の教育環境が変わってくるということでございます。ALTの増員の話についても個人的考えではありますが、2人と言わずに熱海市において英語教育をこう位置付けたいので5人、10人必要であるならば、しっかり議論すべきことだと思えます。こういった特徴ある教育をしたいかと念頭に置いて中で、教育委員さんを中心に教育委員会内でご議論を賜りながら、実際の動きに繋げていただければありがたいと思えます。次回はソフト面として、先進事例をお示しいただくなど議論の材料を出していただきながら、熱海らしさをご議論賜われればよいかと思えます。

3点目は教育と福祉の連携です。場所も近くなりますので、福祉での子育て、教育保育での子育てと連携が重要でございます。市長部局としても教育委員会と連携について議論を重ねていければと思えます。

6. 閉 会

(終了 16時34分)